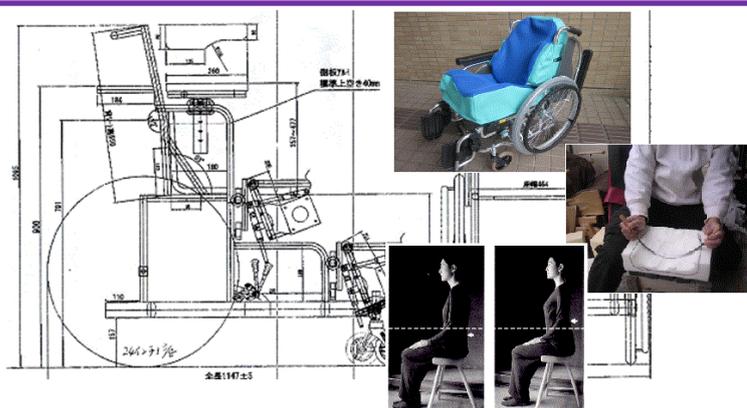


# 【ユニリハ】 作業と姿勢と人間工学

～臨床で使おう 基礎編 × 治療へ利用 応用編～

ポジショニング、シーティング、  
フィッティングは人間工学から  
生まれました。  
まずは、  
基本となる工学エビデンスを  
学びませんか。



日時 2017年6月2日(金) 10:00～16:30

・会場 八王子市芸術文化会館いちょうホール (東京都八王子市本町24番1号)

受講料 14,000円 (基礎編のみ7000円)

・申込URL <https://www.meducation.jp/seminar/regist?id=50304>

お問い合わせ 日本ユニバーサルリハビリテーション協会

TEL 042-208-0102

E-mail [otmode@jcom.home.ne.jp](mailto:otmode@jcom.home.ne.jp)

URL <http://universalreha.com/>

人間工学とは、アメリカで生まれ、ものを人の生活様式に合わせてデザインする技術であり、その発祥は、戦後日本の小学児童が使う椅子と机の高さ平均を算出し整備するという、教育場面の姿勢制御がはじまりでした。更に昭和39年開通の新幹線シートの開発、昭和44年のジャンボジェット機シート開発、建築工学のインテリアで利用されるキッチン、椅子、テーブルの幅や高さ、通勤電車内の設計、工場内作業椅子、作業台の高さ等、幅広い分野で活用されてきました。

人間工学のこのような開発には、日本人成人男女の身長体重から、手や足の長さ、身体重心等の平均を徹底的に調査し、身体機能面のエビデンスを人間の精神や心理と行動特性に照らし合わせ、デザインされてきたものです。

我々が日々向き合っている症例は、生誕からものに触れ、遊び、作業を介し、あたりまえのように道具を活用しながら、今現在、福祉や医療の世界で生活しています。この方々に福祉や医療を提供し、再び社会生活に帰るための介入を行うのであれば、人間工学を我々医療従事者が知っておく事は重要な要素なのかもしれません。

そこで今回は、作業と社会活動に伴う姿勢制御をどのように捉え、ユニバーサルデザインを確立してきたのか、更に私たちが日々の日常で何気なく使っているインテリアや作業椅子、作業台に隠されたルーツ、原理を解き明かすことで、作業療法や作業療法士の臨床に生かしていく技術、方法論と心理精神活動に影響する事実をご紹介します。

『作業と姿勢と人間工学』何気なく使っている道具は、聴講後、治療機器に見えてくるかもしれません。